

政策の柱	Ⅱ 市民の学び意欲と豊かなところを育むために	政策名 (基本施策名)	1 生涯にわたる学習活動を促進する	施策名	② 家庭・地域の教育力の向上
------	------------------------	----------------	-------------------	-----	----------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19	H20	H21	H22	H23	H24	H23
					基準年	実績	実績	実績	実績	見込み	H24見通し
◆親学向上のため、親学出前講座や家庭教育講座など、保護者が子育てに必要な知識を学ぶことのできる機会を提供している。 ◆家庭・地域の教育力向上のため、魅力ある学校づくり地域協議会を全校に設置、地域はみんなの学校づくり事業を推進し、地域ぐるみの取組を進めている。 ◆児童の放課後の居場所づくりや体験活動の充実を図るため、放課後子ども教室と子どもの家を一体的に実施する宮っ子ステーション事業を推進している。	◆放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数については、地域教育活動の必要性を訴え、活性化支援に着実に取り組んできたことにより、目標値を大きく上回る実績となっている。 ⇒ 今後は宮っ子ステーション事業として更に事業を推進していくことで、引き続き目標の達成が見込まれる。	314.4%	放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数	人		700	1,200	2,100	3,200	4,680	314.4%
					92	3,026	5,026	7,988	14,716	12,000	256.4%
◆親学の推進にあたっては、子育てに必要な知識を学ぶ機会や、関係団体・企業等との連携強化が課題となっている。 ◆家庭教育支援センター機能の整備については、H22に人材かがやきセンターを設置し各種事業を行っているところであり、家庭教育支援のリーダーとなる指導者の育成が課題となっている。 ◆地域と連携した魅力ある学校づくりの推進にあたっては、各魅力ある学校づくり地域協議会における活動の充実・強化と、活動状況に偏りが見られ、その解消が課題となっている。 ◆宮っ子ステーション事業の推進にあたっては、事業全体のあり方の見直しや、放課後子ども教室の開設日数の拡大など事業内容の充実が課題となっている。			市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22	H23		
					重要度	70.2	66.4	72.2	73.2		%
					満足度	25.2	25.9	27.2	32.2		%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
親学の推進			◆親学向上支援プランの「社会が支え、親がかがやき、子どもの夢を育む家庭教育の実現」を基本理念に、親学出前講座や子どもの家における子育て支援事業の実施、家庭教育サポーターの養成、家庭の教育手帳の作成・配布など、親学向上のための様々な取組を進めている。 ⇒ プランに沿った様々な事業に取り組む中で、家庭の教育力向上が図られる見通し。	◆親学向上を図るため、就学時健康診断など、多くの保護者に講話等を行うことができる機会を効果的に活用するとともに、家庭教育支援団体や企業等と継続して連携しながら、講座内容の充実を図ることが課題である。
家庭教育支援センター機能の整備			◆「家庭教育支援のリーダーとなる指導者の養成・研修」や「市民の地域教育活動を促進する全学的・先駆的な取組」、「新たな学習プログラムの開発・調査研究」などを行う家庭教育支援センター機能を有する「人材かがやきセンター」をH22に設置し、各種事業に取り組んでいる。 ⇒ 家庭教育を支える人づくりがより進む見通し。	◆社会全体で支える親学向上の取組を推進するため、更なる家庭教育支援のリーダーを養成することが課題である。
地域と連携した魅力ある学校づくりの推進			◆魅力ある学校づくり地域協議会(以下、「地域協議会」)を全小中学校区に設置し、学校支援活動のほか親学や特色ある活動を地域の実情に応じて実施している。活動の活性化が求められている地域協議会への対応として、H23より地域コーディネーターを全ての地域協議会で配置できるなどの制度の見直しを行った。 ⇒ 地域コーディネーターを中心に、地域協議会の活動の活性化が図られる見通し。 ◆宇都宮市魅力ある学校づくり地域協議会支援会議を設立し、地域協議会の活動を支援してきたところであり、より効果的に学校教育の充実と家庭・地域の教育力向上が図られるよう、H23より活動支援の機能を強化する制度の見直しを行った。 ⇒ 支援会議による支援を通して、地域協議会の活動の活性化が図られる見通し。	◆学校・家庭・地域の連携による魅力ある学校づくりについては、地域協議会の活動を更に充実することが必要となっている。 ◆小中一貫教育とともに実施する地域学校園への対応については、小中学校区の地域協議会が連携した取組が必要となっている。
宮っ子ステーション事業の推進			◆すべての児童の放課後の健やかな育成を図るため、「放課後子ども教室」と「子どもの家」事業を一体的に実施し、地域、学校などと連携して放課後における児童の安全安心な居場所を設けるとともに、勉強やスポーツ、文化活動、交流活動などの様々な活動を通して地域ぐるみの子育てを行っている。子どもたちが地域社会の中で心豊かに育まれる環境づくりを推進するため、全小学校区での放課後子ども教室の実施に向けて、各地域において順次開設を行っている。 ⇒ 宮っ子ステーションがほぼすべての小学校区で設置され、放課後児童の健全育成がより一層図られる見通し。 ◆子どもを取り巻く社会環境の変化から、放課後における子どもの居場所と体験・交流・学習の機会がますます重要になってきており、子どもの家事の開設時間の延長制度を導入したところであるが、それ以外にも対象学年の拡大など、運営内容に課題が生じてきているため、将来の事業のあり方の見直しを行っている。 ⇒ 緊急性や国の動向、将来の放課後対策のあり方を見据えた見直しにより、より効果的に事業が推進される見通し。	◆放課後子ども教室の開設日数の拡大や事業内容の充実が求められている。 ◆今後の社会状況の変化を踏まえながら、放課後対策の更なる充実を図るため、事業のあり方の見直しが必要となっている。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値、下段：実績値）					重点度 (A~C) ※施策目標に対する寄与度	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
						H20	H21	H22	H23	H24			
						実績	実績	実績	実績	実績			
1	家庭教育対象事業	市内に住んでいる乳児から高校生とその保護者	S24	講座数	回	28	27	27	27	27	A	継続	保護者に対する学習機会や、仲間との出会いの場となっており、家庭教育力向上に大きく貢献している。今後は更に子育てサポート世代に対する教育や支援も充実させるよう検討していくとともに、本市家庭教育講座に関わりを持っていない家庭に対する教育・支援についても併せて検討すること。
				延べ受講者数	人	12,590	10,910	10,910	10,910	10,910			
2	地域はみんなの学校づくり事業	魅力ある学校づくり地域協議会	H23	実施している事業数	件	500	600	700	800	910	A	新規	各小中学校を拠点に、学校、家庭、地域、企業が連携・協力しながら、地域の教育力を活かした学校教育の充実と家庭地域の教育力向上のための活動を通して、信頼され魅力のある学校づくりが進んでおり、施策目標への貢献度は高い。今後は地域学校園で連携した取組を充実すること。
						559	612	648	1,225				
3	地域の教育力向上事業の推進	地域の大人	H18	地域教育活動支援研修の参加者数	人	180	180	180	180	180	A	継続	家庭・地域の教育力の向上の一翼を担う事業であり、地域の大人による教育活動を促す重要な事業である。今後は、小中一貫教育及び地域学校園の全市実施などを踏まえ、「地域はみんなの学校づくり事業」の充実を図ることにより、地域の教育力向上を図ること。
				地域教育力向上フォーラムの参加者数	人	300	300	300	300	300			
						358	917	330	0				
4	放課後子ども教室推進事業	市民(児童及び地域住民)	H19	宮っ子ステーション実施校区数	箇所	6	16	26	36	51	B	継続	子どもの健全育成に重要な体験活動や異年齢交流事業を地域住民が運営することで、地域教育力の向上につながる事業であり、施策目標への貢献度は高い。今後も子どもの家等との一体的な実施を目指しながら、宮っ子ステーション事業として更に事業を推進していく。
				放課後子ども教室実施日数	日	162	574	900	1,430	2,320			
						346	589	1,210	1,430				
5	子どもの家・留守家庭児童会事業	留守家庭児童を中心とした地域の小学生及び乳幼児とその保護者	S41	子どもの家設置箇所数	か所	66	66	66	66	66	B	継続	子どもの家・留守家庭児童会事業は、留守家庭児童の生活の場を確保するとともに、健全育成を推進する事業として必要性が非常に高いことから、引き続き、宮っ子ステーション事業として、放課後対策事業を推進していくこと。
						65	65	65	65				
6	子どもの家建設・整備費	留守家庭児童を中心とした地域の小学生及び乳幼児とその保護者	S41	年度ごとの子どもの家整備数	か所	3	2	2	2	1	B	継続	子どもの家の整備については、これまで利用児童の増加や施設の狭隘度、老朽化、地域ニーズ等を総合的に勘案しながら、計画的な整備に努めており、地域における児童の健全育成の拠点施設として十分な役割をはたしていることから、今後とも引き続き計画的な整備を行っていくこと。
				子どもの家の開設数（小規模校を除く）	か所	42	45	48	50	50			
						42	46	48	50				
7	家庭の教育力向上事業の推進	主に保護者、未来の親(中学生・高校生等)、家庭教育支援団体、企業	H19	親学出前講座実施件数	件	60	70	70	70	70	B	継続	親学出前講座における多様な学習内容の提供は、保護者のニーズに応え、家庭の教育力向上に寄与している。引き続き学習機会の充実に努めるとともに、家庭教育サポーターの活躍の場を広げるなど「社会で支える取組」にも合わせて取り組むこと。
				親学出前講座参加者数	人	3,500	3,800	3,800	3,800	3,800			
						4,543	3,761	4,081	4,289				
8	宇都宮市PTA連合会補助金	宇都宮市PTA連合会	S32	組織率	%	100	100	100	100	100	C	継続	家庭・学校・地域連携の中心となって活動することが期待される、重要な団体である。このことを踏まえ、今後も意見交換などを実施しながら、行政と連携した取組の充実等の支援を行い、本市の家庭と地域の教育力向上のため、引き続き補助金を継続すること。
						100	100	100	100				
9	宇都宮市子ども会連合会補助金	宇都宮市子ども会連合会	S44	子ども会指導者・育成者研修の実施回数	回	3	3	3	3	3	C	継続	地域に密着して青少年健全育成に取り組み、中心となって活動することが期待される、重要な団体であることを踏まえ、本市の地域の教育力向上のため、引き続き補助金を継続すること。また指導者研修の共同開催など、行政と連携した取組の充実についても引き続き支援していくこと。
				U L C派遣指導回数	回	50	50	50	50	50			
						49	53	49	37				